

て貰うことを目標としていますので、本文の読み、漢字(週一回の漢字テスト。通称「チャーリー」)や言葉調べ(言葉ノートの提出)、文法などの言語の事項にもより多くの時間を割きます。こういった基礎的なことは反復練習が必要なのですが、極力、単調なものにならないように配慮しています。また、SISでの学習言語は日本語を主としています。(英語・音楽・美術・体育などは主に英語で授業が行われ、国語・社会・数学・理科などは日本語で授業が行われています。)ですから、SISで学習するための言語を強化するという役割もあります。海外生活そのほかで身につけてきたものは大事にメンテナンスしながら、同時に日本語の力もブラッシュアップするという姿勢が大切かと思えます。このクラスからも、一〜三学期間ほどの学習を経て国語のクラスへと移動します。

最後に国語のクラスです。国語科では、中学時代を国語の基礎力の確立を目標に学習していく時期と捉えています。主に教科書の教材を扱いながら授業を進めますが、新しい教材ごとに、語句、漢字を辞書で調べて言葉ノートを作成し提出したり、教材によっては課題作文を書いたりすることもあります。その中で、思考、表現力を伸ばすことが目標です。また、毎週一回、漢字学習帳を使って漢字テストを実施し七割を合格点として、不合格の場合は再テストを行います。これは、点数を競うのではなく、覚えることが目標だからです。読書については、読書ノートを作り、記録を残していきます。各学期、長期休業中などには、教材と関連したテーマの課題読書も実施しています。言葉ノートと読書ノートは中等部の三年間を通じて一冊のノートにまとめることを推奨していて、中等部での日本語・国語の学習の成果が形として残るようにしています。



中学1年生新春百人一首大会

## まとめ

千里国際学園では、それぞれの生徒の多様な背景を大切にしつつ、特に帰国生徒の皆さんには、必要とされる力をつけてもらうための「補償教育」という考え方で国語教育を行っています。今まで違う文化の中で身につけてきたものを大切にしつつ、必要なものを加えていくということです。もちろん、日本語が第一言語である場合はその限りではなく、どんどん知識・運用能力・鑑賞力を深めていってもらえばよいわけですが。

そして、いろいろな国語の授業の中で、日本語には慣れ親しんでいるけれども積極的に意見を述べるのが苦手な生徒と、日本語は多少慣れていない部分もあるけれども積極的に面白い意見を述べられる生徒が互いにより影響を及ぼして、面白い化学変化が生まれればよいのかなと思っています。

千里国際学園 中等部・高等部  
〒652-0032 大阪府箕面市小野原西4-4-16  
電話 072-727-5070, FAX 072-727-5055  
HP:www.senri.ed.jp, E-mail:admissions@senri.ed.jp

## 福島 浩介 (ふくしま こうすけ)

千里国際学園 (SIS) 国語科 教諭



1966年生まれ。1991年、広島大学大学院教育学研究科博士課程前期修了後、開校当初から国語科教諭として勤務。校務分掌は教務センターでコース・アドバイザー、高等部三年学年主任(2008年度)。趣味は音楽で、中学から大学までは吹奏楽、社会人になってからは12年ほどアマチュア・オーケストラで、また近年はジャズのBig Bandを主催し、トランバットの演奏を楽しんでいます。校内のミュージカル公演でもオケピの中で吹きます。特技は、コンピュータ、調子のいい英語会話、餅つき。昨年から京都外国語短期大学で非常勤講師として、大学生の日本語リメディアル教育にも携わっています。



子どもが、海外で身につけたものを大切に伸ばし続け、日本の教育からみて足りないところを補っていく。それが帰国した子ども達にもっとも望ましい教育です。それを実践している千里国際学園の日本語・国語のプログラムの紹介です。

昨年秋の海外入試でロサンゼルスにいられた福島先生とゆっくりにお話をする機会に恵まれました。先生の特技の「調子のいい英語会話」で、オーストラリアとイギリス出身の先生達と教育談義に花を咲かせていました。

千里で開校以来とのことですが、福島先生はもともと「帰国生の理想」の教育が出来る人だったのか、それとも、その力を千里での長年の教員生活で身につけられたのか、それを聞いておくべきでした。

どちらにしても、こんな先生達から理想のプログラムを受けられる千里国際学園の児童・生徒は幸せです。福島先生の貴重なレポートに感謝!